

## 第8回府中市生涯学習審議会会議録

1 日 時 平成30年6月28日(木)午後3時～5時

2 場 所 府中駅北第2庁舎5階 会議室

3 出席者(敬称略)

(1) 委員13名

岩久保早苗委員、大谷久知委員、奥野英城委員、忍足留理子委員、岸定雄委員、北島章雄委員、佐野洋委員、関口美礼委員、相馬一平委員、寺谷弘壬委員、中村洋子委員、西原珠四委員、三宅昭委員  
木内直美委員、長畑誠委員は欠席。

(2) 職員4名

古田文化生涯学習課長、平野文化生涯学習課長補佐、宮崎生涯学習係長、諫山事務職員

4 開会

事務局より、傍聴希望者について説明。傍聴が了承され、傍聴希望者が入室。

5 報告事項

(1) 配布資料の確認

- ・資料1 府中市生涯学習審議会(第7回)会議録(案)
- ・資料2 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査最終報告書 ...事前送付
- ・資料3 ヒアリング調査結果まとめについて
- ・資料4 第3次府中市生涯学習推進計画 体系案について  
...事前送付したが、一部内容修正のため本日本配布のものと差し替え
- ・資料5 第3次府中市生涯学習推進計画の体系図を検討するためのイメージ(案)  
...事前送付したが、一部内容修正のため本日本配布のものと差し替え
- ・資料6 第3次府中市生涯学習推進計画 構成案について
- ・資料7 平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会スケジュール及び内容について

(2) 前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録(案)について、市民に公開することが了承された。

( 3 ) 「平成 3 0 年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会 第 1 回役員会・第 1 回拡大役員会」について

(事務局) 5月22日(火)に武蔵野市の武蔵野プレイスで開催された「平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会 第1回役員会・第1回拡大役員会」に寺谷会長、事務局から宮崎、諫山が出席したので、ご報告させていただく。

各ブロックの研修会の現状の予定について報告があった。その詳細や、また社会教育の活動を紹介する会報誌のようなものを作るという案が出ているが、それについても、7月24日(火)に開催予定の理事会で報告される予定なので、またご報告させていただく。

(会長) 会報誌は府中市が会長市になった時、最初に出てくる案件かと思う。これから決定することに関しては、7月24日(火)午後1時半からの理事会で報告・承認していただく。

## 6 審議事項

( 1 ) 第 3 次府中市生涯学習推進計画案について

(会長) 第3次府中市生涯学習推進計画案について から まで、まとめて事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)( について、資料2「府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査最終報告書」に基づいて説明を行った。)

今回は市民アンケート調査の自由記述を含んだ最終報告書となっている。本日は追加した自由記述について説明する。

32ページの問12は、市の「生涯学習」の事業に参加したいと思わない理由の、自由記述の回答について類似している意見をまとめて集計したものである。最も多い回答は「忙しい」の32.0%、次はかなり離れて「生涯学習に興味や必要性を感じられない」13.0%が続く。「生涯学習は一人でやりたい/やれる」という回答が10.0%。「生涯学習は面倒、休みの日はゆっくりしたい」が7.0%で、この4つの回答をしている市民については生活状況や考え方が理由になっているため、生涯学習事業の提供のあり方を変えても、特に参加が増える状況にはなりにくいと考えられる。一方「市の事業をよく知らない」「時間帯が合わない」「自分の好きな講座がない」「講座内容の専門性や質が低い/市外の講座の方がいい」といった回答をしている市民については、生涯学習の広報の充実や時間帯、内容を工夫することによって市の生涯学習活動への参加を促していける可能性が高いと考えられる。33、34ページにはクロス集計表を示している。回答数が少ないためあくまでも参考だが、33ページの「忙しい」という回答は若い層や有職者で多く、34ページの高齢者や家事専業、無職の方で「健康状態が不安」という回答が多くなっている。

47ページの問19は、生涯学習を通じて身につけた知識・技術や経験を、自分以外のために活かしたいと思っていない人に、なぜ活かしたいと思わないのか理由を

聞いた。最も多いのは「自分のためにやっているだけだから」41.5%、次いで「忙しい」の16.0%、「活かすだけの実力がない」13.8%、「健康面で余裕がない」10.6%と続く。48ページのクロス表を見ると「活かすだけの実力がない」「健康面で余裕がない」は高齢者が多くなっている。53ページの問22では、したことがある「学び返し」の内容を聞いている。最も多いのは、「子どもへの指導」21.8%、次いで「スポーツ指導」と「仲間内・サークルでの教えあい」の18.2%、「趣味の指導」16.4%となっている。教えるのではなく活動で地域に返す「地域ボランティア」は14.5%にとどまる。54ページにクロス表を掲載している。

59ページの問25では、今後やってみたい「学び返し」の内容を聞いている。最も多いのは少年野球の監督など「スポーツ」の指導で14.6%、次に、具体的なジャンルに限定せず「自分の得意なことや自分の経験」を教えてみたいが12.8%、「語学」8.5%と続く。その他には「簡単なものならやってみたい」「自己啓発につながるものをしたい」「そろばんを教えたい」など多様な意見が寄せられた。60、61ページのクロス表を見ると、男性は「スポーツ」「歴史・郷土史」が多く、女性では「自分の得意なことや自分の経験」「育児」が多くなっている。年代別では、10代から20代ではスポーツ、30代は「IT・パソコン」「育児」、60代では「自分の得意なことや自分の経験」が多いという結果になった。

62ページの問26では、市の特徴を生かした「学び返し」のアイデアを聞いている。全体で最も多いのが「郷土史学習／お祭り等の伝統文化継承」で36.1%、かなり離れて、SNSなどの「生涯学習・学び返しのPR」が10.8%、「イベント形態の改善」が10.2%、講座の広報や提供の仕方を変えて欲しいという声が出ている。63、64ページにクロス表を掲載している。10代から20代で「郷土史学習／お祭り等の伝統文化継承」が多く、若い人も府中市の歴史文化に関心を持っていることがわかる。

最後に、70ページは問29の自由記述をまとめたもので、全体で最も多かったのは「広報の充実」の26.7%で、具体的な意見としては「情報量が少ない」「ホームページで市内のサークル・チームなどの紹介もしてほしい」などホームページの改善の要望、「SNS、チラシ、ポスターの拡充」「ふちゅこまの活用」「「学び返し」が広報されていない」などがあつた。「広報の充実」については、特に若い世代での意見が多くなっている。「施設のハードや運営方法への不満」については、「生涯学習センターの老朽化」、市の施設全体としては、「障がい者（特に知的障がい者）が使いにくい」などがあつた。「若い人・働いている人への対応強化」の10.9%としては、「土日祝日・夜間対応」「資格取得など若い人・働いている人向けの講座内容の拡充」「働いている人に届く広報の実施」が主な内容である。「講座の内容・数を拡充して欲しい」の10.4%については、英会話や国際交流、郷土史や伝統文化など府中市の特性を活かしたプログラムづくりなど多彩な要望が寄せられている。「高齢者対応の強化」の8.6%については、高齢者向けの健康系の講座を増やして欲しい、生涯学習センターや府中駅近くの施設ではなく最寄りの文化センターや地域体育館での

活動を増やして欲しいという意見が多く出されていた。「新規住民・新規参加者への対応」7.7%は、既存の生涯学習活動やお祭りなどについては、昔からの住民や参加者が中心となっており、輪の中に入りにくいというのが、主なものとなっている。転入してきた方には広報ふちゅうなどの情報が入っていきにくいという意見もあった。「子育て世代向けの強化」7.7%は、託児サービスなど乳幼児連れの対応を強化して欲しい、親子参加の枠を拡大して欲しい、育児などのテーマを拡大して欲しいなどの声があった。

(事務局)( について、資料3「ヒアリング調査結果まとめについて」に基づいて説明を行った。)

ヒアリング実施期間は2018年6月6日から6月12日、ヒアリング調査先は市内10施設、生涯学習サポーター3名、ファシリテーター養成講座受講者3名である。市内施設は生涯学習センター、中央図書館、中央文化センター、四谷文化センター

ルミエール府中(市民会館)、市民活動センター「プラッツ」、府中の森芸術劇場、郷土の森博物館、府中市美術館、郷土の森総合体育館(市立総合体育館)の10施設。ヒアリング方法は、施設には直接調査員が出向いて事業担当者にインタビュー形式で聞き取りを実施。生涯学習サポーターとファシリテーター養成講座受講者は、各3名に集まってもらい、それぞれグループインタビュー形式で聞き取りを実施した。

まず施設についてのヒアリング結果については、「どの施設の講座も定員割れはあまりなく、市民の生涯学習活動は非常に活発」「参加者の中心は高齢者と親子であり、働き盛り世代や若い独身者の参加は少ない」「学び返しの理解が進んでいない」「市内全体の連携となっていない。各施設とも、個別施設ごとの連携にとどまっている」「広報手段は「広報ふちゅう」、施設のホームページとチラシが中心という施設が多い」「市民のニーズを把握しきれていないと感じるが、予算等の関係で事業に反映することが難しいと感じている施設もある」という意見があった。

次に、生涯学習サポーターとファシリテーター養成講座受講者に対してのヒアリング結果である。「活動できる場が少ない」「府中の役に立ちたい、もっと市民に知ってもらいたい、もっと活用して欲しい」「ファシリテーター養成講座の内容が、実際の活動に役立つところまでいっていない。またモチベーションを与えるような内容になっていない」「横のつながりが希薄。他のサポーターと交流して、どのような活動をしているか、活動状況を知りたい」「ファシリテーターを組織化して、活動を推進してはどうか」という意見が出ている。

(事務局)( について、資料4「第3次府中市生涯学習推進計画体系案について」、資料5「第3次府中市生涯学習推進計画の体系図を検討するためのイメージ(案)について」、資料6「第3次府中市生涯学習推進計画構成案について」の説明を行った。)

資料5の詳細を記したものが資料4である。資料4の1ページ「市の生涯学習政

策の基本的な方向性」で、本市の「学び返し」の理念、「学んだだけでなくその成果を地域や社会に還元していく」は、第6次府中市総合計画後期計画でも、「学び返し」の機会を充実させることが重点プロジェクトとして記載されていることから、これを継続していきたいと考える。

「市の生涯学習の現状と課題」は、現状について生涯学習活動が活発である一方、日中市内にいることが少ない若年層や就労者など生涯学習に参加しにくい層がある。府中市では生涯学習センター、ルミエール府中、市民活動センタープラッツなど、夜10時まで開館しており、夜間対応はしているが、それ踏まえ、どのような対応が可能か考えていく必要がある。府中市に転入された方、これまで生涯学習活動に参加されていない方が輪に入りにくいといった意見がアンケートの自由記述で多くみられたことや、高齢者、育児世代からも参加しやすさを求める声が出ている。広報、情報発信に不満があるというところでは、ホームページ、SNS、ポスター、チラシへの期待も多くなっている。またホームページに関してはサークルなど市民の活動団体の情報を載せてほしいという声もあがっていた。これを受けての課題としては、「1.市民全体が生涯学習活動に参加しやすい環境づくりを進めることが必要」である。

「学び返し」の理念が定着していないことについては、アンケート結果からも「学び返し」の認知の低さが表れている。人材育成事業などは実施している一方で、市民に「学び返し」を広げていく活動が十分でない。生涯学習サポーターについては、登録者数に見合った依頼件数がない、ファシリテーターについては、研修修了者の活躍の場がなかなか確保できていない現状がある。これを受けての課題は、「2.市全体に「学び返し」の考えが定着する施策を進めることが必要」である。

ヒアリングの結果では、プラッツや図書館、美術館など各施設の現場では生涯学習センターや文化センターとの連携の重要性を認識しており、各施設をつなぐ有効な施策が求められている。また施設ごとの情報発信ではなく、市内の生涯学習をまとめた広報媒体などが求められている。これを受けての課題は「3.生涯学習を推進するための基盤となる体制の整備や情報発信の工夫が必要」となる。

3ページの基本理念は第6次府中市総合計画「文化・学習」分野の基本目標、「人とコミュニティをはぐくむ文化のまち」である。基本目標「みんなで学び みんなに返す ひとと地域がともに育つ 「学び返し」のまち 府中」はあくまでも案である。「みんなで学ぶ」は、府中市に転入された方、高齢者、若い世代、就労者、子育て中の人など市民みんなが学べる環境を整備することを目指している。「みんなに返す」は、「学び返し」の考えを普及させるとともに、そのための人材育成や返すための活躍の場を拡大することを目指す。「ひとと地域がともに育つ」は、人生100年時代を踏まえた個人としての成長と、歴史文化、緑等をはじめとした府中ならではの地域の振興を、「学び返し」で実現することを目指すものである。

「基本施策1 誰もが学べる環境づくり」は「対象者ごとの学習環境づくり」「気軽に参加できる学習環境づくり」とした。「基本施策2 誰もが活躍できる環境づくり」は「「学び返し」を实践する人材の育成や登用」「市民が活躍する場の拡

大」とした。「基本施策3 生涯学習を支える基盤の整備」は「施設と事業との連携」「生涯学習の推進機能の充実」「安心・安全に利用できる施設の環境づくり」とした。

4ページは重点施策(案)である。「方向性1 モデル事業の実施」は「1.対象者向けモデル事業の実施」とし、就労者、子育て世帯、高齢者などの対象者の興味や参加のしやすさを踏まえた、新たな生涯学習講座などの実施をめざす。「2.「学び返し」育成モデル事業の実施」とし、他分野と連携しながら、学んだ後の「返し方」を教える、活躍の場も準備するなど、「学ぶ」と「返す」を実践できる事業の実施をめざす。

「方向性2 「学び返し」広報・PR体制の確立」は「1.紙とデジタル双方で広報の強化」とし、生涯学習の面白さや「学び返し」の重要性をアピールできる新たな広報体制の拡充が求められる。「2.「学び返し」を市民に定着させる目玉事業の充実」とし、「学び返し」の理念をより周知し、定着させていくために、今まで参加していなかった人も参加できるような「学び返し」が体感できる機会を提供する。また、イベントに「学び返し」というタイトルを入れていくということも考えられる。

資料6は第3次府中市生涯学習推進計画の構成案となっている。

(会長) 事務局から説明のあった重点施策について、事前に各委員の意見を「参考1」としてまとめてお配りした。方向性1の1と方向性1の2で意見をいただいた方に発言していただきたい。

(委員) 方向性1の1では、学習の理念を明確にして戦略的に取り組むことが基本だと思う。65歳以上の高齢者に意欲的に過ごしてもらうことが医療費削減になる。このような戦略的な目標をきちんと置くべきだというのが、私の基本的な意見である。生涯学習で教養を高め、仲間と交流の場を提供することによって、「楽しく無理せず、ちょっと頑張る」毎日を過ごしてもらう場を提供する。高齢者が引退してからも活性化させたい。

もう一つは、生涯学習センターの機能を再整備する。市民カレッジというものがあるが、「ふちゅう元気大学(仮称)」といった構想を作り、そこを母体にして生涯学習の拠点にする。対象は、就労者は難しいので、高齢者と子育て世帯に絞る。「核」になるものがないと、「学び返し」といっても情報は戻ってこない。

1の2は、「学び返し」という言葉が日本語として難解である。これを「経験交流」といったわかりやすい言葉にしたらどうか。今までの活動も古色蒼然として魅力がない。府中市の各団体、企業、大学などと経験交流パートナーシップ協定を締結し、これをもとに「ふちゅう元気大学(仮称)」などで講演してもらう。

(会長) 方向性1の1については、勤労者のための夜間学習を今もやっていることがアンケート調査も出ていたが、パソコンか語学などは、夜やったらいいのではないかと。また、サッカーや野球など子どもたちの早朝スポーツを行ったらいいのではないかと思う。

方向性1の2は、むしろ方向性2の2に近いかもしれないが、府中市もいろいろな

イベントを行っているが、もう少し統合化した方がよい。府中刑務所の作品販売、東京農工大学や都立農業高校の農産物販売、府中市の姉妹市町村の製品販売など、安く買って、府中市はこんなことをやっているという感じを持たれればいいのではないかと考えた。

(委員) 市から送ってもらった資料を見て、これで本当にいいのかと思った。まず、体系自体があまりに漠然としていないか。現実的に皆が理解できるほうがいいのではないかと考えた。その辺の提言をさせていただいた。「学び返し」の実行や市民に浸透していくための対策はかなり考えてもらっていると思う。それはそれでいいが、果たして「学び返し」だけでいいのかという感覚を、私は以前から持っている。「学び返し」に対応するのは、ある程度経験もあり知識もある人。分野として仕事・スポーツ・趣味などいろいろ範囲は広いが、果たしてそれを地域に還元できるだけの能力がある人がどれだけいるかと言うと、そんなに多くない。恐らく2割くらいだと思う。それが「学び返し」が浸透しない一つの理由でもあると思う。

それ以前の問題として、自分は地域のために何をしていったらいいのか、自分はどうか生きていったらいいのかと考えてもらうことが大切。これからの人生100年時代、退職してからも長い時間があるが、実際は、大半の人が地域のために何ができるか、自分がどう生きていくかということを考えていないのではないかと考えた。そういう人たちに、自分は府中市の中でどう生きていくのか、どう生きがいのある生活をして地域に貢献していくのか、それを考えてもらわないと、その先に進んでいけない。ただ老人会のスポーツや趣味の会に出るだけではなく、もっと地域のためにやることはいっぱいあるはずなのに、やろうとしない、考えていない。そういうものを基本的に考えるような講座や講演などを充実させる必要があるのではないかと考えた。そこから方向性1の1として、「人生100年時代をどう生きるか」「地域と過ごすための充実したライフプラン」「充実した第二の人生設計」「今から始める定年後の人生」「AIの発達で世の中はどうか変化」というようなことを考えた。日頃あまり考えていない人が、意識改革をして考えるようになる機会を、生涯学習の中で作ってあげることが必要だと思った。

(副会長) 学習をするにはインターネット活用がよいという意見が出ているが、そのためには道具が必要で、高齢者はこの道具を使えないということがある。この辺も合わせて考えないと、弱者が置いていかれるような生涯学習をやってもしょうがないのではないかと考えた。それでこの意見を出した。前回までの審議会でも、各地域で学習をするようにした方がいいのではないかと考えた。寺子屋のような小さい学習箇所の拠点をいくつか作り、その中で市の指導に基づいて進めることも、学習する機会の一つではないかと思っている。生涯学習センターが非常に行きにくい場所にあることが、皆さんが生涯学習センターを利用しない一因ではないか。それを少しでも解消させるために、生涯学習センターに集中させないというのもひとつの方策では

ないか。「場所」と「条件」といった具体的な面をもう少ししっかり考えた方がいい。

重点施策の案は、言葉としてはいい。あとは中身をどうしていくかだと思う。

(委員) 方向性1の1で書いたように「ニーズを吸い上げたうえでどのようなビジョンを持って行うか」が大切になると思う。何を最終的なゴールにするかを考えるのも面白い。最近、10年後には60%以上の人がある職業についているとか、そういうことを聞くと、早目にそこに目をつけて、専門的・重点的に取り組むとよいのではないかと考えている。例えばドローンは新しいものだが、操縦する技術はラジコンの技術であり、高齢者も得意な人、やるという人もいるかもしれない。こういった、これからいろいろな分野で必要になるであろうことに早目に注目して重点的に取り組んだらどうか。そして将来的には、他の町でもドローンで映像を撮りたい、学校の周年行事の画像を撮りたいと言った要望に対応できるような、方向性と専門性を持った、生涯学習としてこれからの時代に必要な何かを、市として見つけて重点的に取り組むということもあるのではないかと。ただ単にニーズを吸い上げるだけではなく、長い目で我々自身がビジョンを持ってやる。例えばジャズの街としてジャズに関して専門性を高めていると、魅力が生まれ他の人が寄ってくるような、生涯学習でも同じように何かひとつ絞ってみるのも、将来的にニーズが生まれる可能性があるかなと思う。

(委員) アンケート調査を見て、方向性1の1のモデル事業に関しては、たたき台としてとてもよい案だと思う。方向性1の2の「学び返し」に関しては、実際に私はフラダンスを先生のアシスタントとして子どもたちに12年教えている。自分が習いながら子どもたちに教えて返していっているので「学び返し」ではないかと思う。フラダンスはスカートとTシャツがあればどこでも踊れるということで、とてもいいスポーツだと思うし、子ども達にも浸透していて喜んで練習している。底辺を広げるためにも自主グループの方々が返せる講座を考えていただければと思う。

(委員) 「学び返し」育成事業ということで、スポーツや趣味などを府中市の中でいろいろ活かしていく場はあるが、仕事の経験や知識、技術を府中市の中で活かすのは限られるのではないかと。府中市だけでなくもっと広く、日本のため、世界のためでもいい。例えばJICAの海外派遣制度を利用して外国へ行ってボランティアをする、そういう分野での活躍の仕方もある。過疎地、人がいなくて困っている地域に行き、定年になったら会社の延長ではなく、農業・果樹園・林業・養殖・漁業・伝統工芸・自然保護など、いろいろな分野で活動するというのもいい。府中市の姉妹都市契約などにより、住居は提供するとか、週2日働くとか、受け入れやすい条件をすり合わせて可能性を広げておく。そうすれば、コーディネーターも可能性が考えやすい。府中市が市民に何をしてもらいたいのか、期待しているのか。例えば介護の分野なら何を勉強したらいいのか。そういうことを明確にして、そういうものをいっぱい作っておく。そういうことにより「学び返し」を活かしていく、市民の活躍する可能性を増やしていく必要があるのではないかと。

(副会長) 「学び返し」という言葉今一つ理解されていない。どんなことをやったら「学び返



し」に該当するかという理解ができていないから、今まで実施できていない。実行委員やボランティア養成講座などは「学び返し」とは意味が違っているのではないか。例えば、親が自分の子どもに教えている内容のプロモーションビデオを作って J-COM で流し、それを生涯学習の「学び返し」の時間である、と表示するなど、学習の機会をわかりやすく表現する。大きな意味で将来を見据えた施策が欲しい、というようなことを方向性 1 の 2 で提案した。

(委員) 方向性 1 の 2 にあるように、「学び返し」ポイントなどを作り、参加することによって、次の学び返しを呼び起こすような、そういうものがあったら面白いかなと思う。

(会長) 方向性 1 の 1 と 1 の 2 に関して、事前に意見を出していない方にもご意見をいただきたい。

(委員) 1 の 1 でも 1 の 2 でも、これは誰がやるのか。

(副会長) まだそこまで詰めていない。

(委員) 講座などの具体的な話が出ているが、どこで、誰が、どういう立場でやって、お金はどこから出るのか、というところがわからない。「学び返し」という言葉が定着していないなどの意見が出て、私もその通りだと思う。例えばビデオやポイント制度を作るとか、教えたい人と教えてもらいたい人のマッチング、コーディネートするなど、そういうことを市民が「学び返しを考える会」等の実行委員会を作り、そこでやってもらったらいいのではないかと思った。育成事業やモデル事業のどこかに、市民同士で「学び返し」とは何かということを考える機関を作ったらどうかと思う。それを市が後押ししてあげたらいいのではないか。ビデオを作るとか、高齢者はパソコンやインターネットに詳しくないから何かしなくてはいけない、といったことは、その会議で話し合いながら実行可能なことをやってもらえるような仕組み自体を審議会で提案し、興味ある市民を集めて実行委員会のようなものの育成をする。具体的に何をやるというよりも、対象が、高齢者、働いている人、障がいを持つ人、それぞれとても多様なので、みんなで一緒に考えて、優先順位付けなども「学び返しを考える会」のようなもので話し合いながら考える。その過程に参加することで、「学び返し」について考えていくし、知名度も上がると思う。市が「学び返し」の授業でビデオを作っても、関心がない人は自分のこととして考えない。話し合いに参加して自分の意見が反映されていくとなれば、何が必要かということも考えていくと思う。「学び返しを考える会」といった実行委員会を事業として設立するということを提案したらどうか。

(委員) 私も、こういった具体的なモデル事業などを考えるときは、その主体・予算・人員・誰がやるのか、というのを考えないと、提案しても意味がないと思って事前に意見を書かなかった。審議会では、府中市のこれから 10 年の生涯学習の推進をどういう理念、基本目標でやっていくのかというのを十分議論してほしい。私は従来から、第 2 次府中市生涯学習推進計画で掲げてきた「学び返し」による地域教育力の向上というのは、あまりにも市民に受け入れられていないということを痛切に感じている。

ここで一回「学び返し」は忘れた方がいいのではないか。むしろこれから人生100年時代を迎えて、府中のそれぞれの市民が自分たちの学びをどんな形で充実させるべきかということが重要ではないか。「学び返し」は自分の知識・経験を別の人に伝えるということの意味していると思うが、それよりも府中市のそれぞれの市民が元気に楽しく活動できるようにするのが「生涯学習推進計画」の基本目標にならないといけないと思う。

「学び返し」は、まず日本語としてよくわからない。学びを返すのか、学んだ成果を返すのか、他の意味を持っているのか、一般の方にはわからない。上位の計画に「学び返し」があるからということで、審議会の議論の範囲を非常に狭めてしまうのではないかと危惧している。

(事務局) 今回ご提示したのが「モデル事業」ということで、具体的に何をするか決めるものと受け取られてしまったかもしれないが、あくまでも方向性ということで皆様からいろいろなご意見等いただければと思っている。今後、具体的な対象や事業費など方向性が定まっていくが、あくまでもこの場においては方向性という形でご議論いただければと思っている。また「学び返し」については、前回の第7回の審議会でご説明させていただいたように、上位計画である府中市総合計画の概念に基づいた中で、今後重点事業として「学び返し」を充実させ継続していきたいというところでご理解いただきたいと考えている。

(委員) 議論の進め方についてだが、まず府中市がどういうものを目指しているか、理念をはっきりさせる必要があると思う。その理念を達成するために、「学び返し」が手段として必要かもしれないし、他のことも必要かもしれない。

資料5の体系図の基本理念に「人とコミュニティをはぐくむ文化のまち」とある。その中で、「学び返し」は基本理念を達成するためのひとつの手段、方向性として考えている。「学び返し」をいかに定着させるかということで、いろいろな施策を考えていると思う。それはそれでいいが、では、この理念はいつどこから出てきたのかわからない。府中市総合計画のどこから取ったのかわからない。府中市の総合計画の中に「多様な人材が活躍できる社会の実現」というのがあり、この方がじっくりくると思っていたが、「人とコミュニティをはぐくむ文化のまち」という非常に漠然としていて、非常に総括的なふわっとした理念が掲げている。これが生涯学習とどう結びついていくのか、生涯学習を通じてどう達成していくかというのがはっきりしない。市民もわからないのではないか。もう少し生涯学習とつながりのある理念をきちんと決めて、それに対して理念を達成するための手段となるのではないか。議論の進め方についてだが、まず府中市がどういうものを目指しているか。理念をはっきりさせる必要がある。その理念を達成するために「学び返し」が手段として必要かもしれないし、ほかのことも必要かもしれない。市が何をしてもらいたいという面から整理していくことも必要である。そういうふうに組み立てて行ったほうがいいのではないか。

(事務局) 上位計画である府中市総合計画の中に、基本構想の都市像として「みんなで創る笑

顔あふれる住みよいまち」がある。それを実現する上で4つの基本目標があり、その中の「人とコミュニティをはぐくむ文化のまち」が今回の基本理念につながる場所である。これは人権、平和、学校教育、市民協働など多岐にわたる分野を括っている理念、目標であり、学習に特化したものではない。おっしゃる通り、学習ということで見るとマッチングしない印象があるのは、そういったことからではないか。

(委員) アンケートを見て53ページから60ページにかけて「学び返し」をしたことがありますかという問で、「子どもへの指導」や「スポーツ指導」が高い割合を占めている。実際にやっていることは「学び返し」というより「生きがい」だと思う。全く経験のない方も、自分が子どもと勉強しながら、子どもに教えていることが生きがいになる方が多い。3年前の国体の聖火リレーを見て陸上の審判になったなど、全く経験がなくても自ら見つけてやるという人が多い。その反面、「学び返し」として50代や年配の方がやりたいと答えているのが「歴史・郷土史」。そこからの発想で、例えば親と子が一緒にスポーツをして、そのあと引き続いて栄養学を勉強する、というような、一体になるような計画はできないか。囃子、祭りも体験しながら伝統的な歴史を勉強していくなど、そういった案はいかがか。

また、高齢者は施設が遠い、勤労者は施設に行きにくいという声が以前からあり、第2体育室が早くできないかと思っている。駅の周辺に、文化施設はプラッツができたが、生涯学習施設でトレーニングできるところが駅の周辺にあればいいという声がある。

(委員) 私の住んでいるのは古い地域で、お祭りも盛んで、お囃子なども先輩から教わってきた。ずっと地域の中での「学び返し」はできていて、府中市はそういう土壤がある。ただ観光的な要素はなく、自分たちのお祭りになっているので、府中に来た方がお祭りに触れる機会がなく、それは寂しい。だから一緒に地域に入ってやってもらえたらと思う。5月は大國魂神社が中心となっているが、夏祭り、秋祭りは府中中の神社のお社で神輿、山車、太鼓が出るが、そういった情報を発信するものがあればいい。お囃子も、無形文化財になっているのは山車ではなく府中囃子であり、囃子の中でも流派がありそれぞれ違うが、市民はそこまではわからない。そのあたりも観光協会を通して調べて発信したら盛り上がるのではないかと。そういった地域づくりを盛り上げていけば、教えられる、教えるということが活性化し、「学び返し」につながるのではないかと。いま行政でも文化センターでまとめて行こうということをやっているが、地域を作っていくことが「学び返し」につながると思う。

(委員) まず「学び返し」という言葉が市のアンケートなどでもすごく狭く考えられている。「教えるものが何もない」という回答もあるが、そうではなく全員が広い意味では「学び返し」をしていると思う。けれど、そこを狭く捉えられていることがまず問題ではないか。みなさんが普通に暮らしてやっていることが「学び返し」のひとつで、それをもう少し考えて、あれもこれも伝えてみよう、と広がっていくのがいいのではないかと。「学び返し」は皆が普通にやっていることだということ認識してもらいたい。また、若者から大人へ、子どもから大人へなど、年下から年上に教えることもあ

と思う。伝統芸能や伝統文化でも、先生から誰かに伝え、その人がまた誰かに伝えるというのは皆がやっていることである。アンケートでも、小さなことでも「学び返しをやっている」と答えてもらえるようになっていけばいいと思う。

(委員) 「学び返し」という言葉は、「手間返し」からきたと聞いたことがある。「手間返し」とは、金銭や物品などをもらった時、返すものがない場合に自分の労働で返すということだと聞いている。

(会長) 語源はそうである。

(委員) あげるものや返すものがなくても、労働することは誰でもできる。「学び返し」が「手間返し」なら、自分が動くことで誰でもできるということなので、私の感覚だと「学び返し」は日本語としてはどう考えてもおかしいと感じる。

(委員) この審議会に参加して「学び返し」という言葉を知った。いま学校はゲストティーチャーとして地域の方や民間の方などをお呼びしているいろいろなことを子どもたちが学習する場を設けている。それなのに、アンケートを見て驚いたのは、「学び返し」という言葉を知らなかった60代から80代の方が7割、8割以上いること。実際「学び返し」をやったことがないという方が85%以上いるが、現役を離れ時間に余裕がある地域の方たちが読み聞かせやお手玉などの昔の遊びなど、また若い方たちはスポーツなど、とてもたくさんの方が学校に来て、子どもたちに教えている。年間を通じて、どの学校もたくさんの人達が関わっており、「学び返し」は行われているのではないか。アンケートの結果を見て「学び返し」という言葉の理解が難しいのかな、と思う。学校の現場で、この言葉は一般化されていない。「学び返し」がそもそもわかっていないし、子どもたちにそういう伝え方をしたことがない。「学び返し」の具体的な案などが出てきているが、審議していくのが細かいところなのか、大きいところなのかが見えなかった。

(委員) 生涯学習推進計画の理念については、いまの基本理念でいいと思う。審議会の答申は、市の関係部署が年度計画を作る時、具体的に何をやるかなど予算請求のために使うのではないかと想像するので、細かい実施主体をここで考える必要はないと思う。重点施策で「対象者ごとの学習環境づくり」という施策が出たとして、例えば夜間も学習センターを開きたいということで予算要求をやってくれればそれでいい。モデル事業の実施という大きい概念で具体策が提案されるかはわからない。

皆さんの意見を伺って、具体的な提案としてはニーズの把握である。介護ボランティアを募集する事業と介護ボランティア育てる事業、清掃ボランティアの募集と同時に、草の刈り方の講座を開くという風にペアにしたらいいのではないか。ニーズとニーズに対応した事業、ニーズに必要な人達を育成する講座をペアにしていけばそれでよくて、「学び返し」を特に理解する必要はない。そういう活動が実施され相互に人が生き生きしていればそれでいいのではないか。何かを提案する本人が人に提供できていることとして「学び返し」を理解する必要はないのではないかとと思う。

事業を誰が実施するのかという意見もあるが、楽観的に取れば、市のいろいろな部署が予算要求をして事業を立てるのではないかと。

(委員) あまり具体的なことでなく、もう少し大雑把なことを言ったほうがいいのではないかと思う。それとは別に、審議会だけでなく、アイデアはいろいろな人から集めたほうがいいので、市民会議のようなものを設置するというのを盛り込んで欲しい。

(会長) 重点施策 方向性2の1と2の2で、ご意見あればいただきたい。

私はデジタル化の工夫をもっとしたらいいのではないかと思う。アンケート調査でも、府中市の広報は少なすぎるという意見があった。

(委員) 方向性2の2は「学び返しを市民に定着させる目玉事業の実施について」だが、今まで生涯学習審議会で承認されたことをずっとやってきて、本当に生涯学習の課題の解決になっているのか、そういう視点から見ると全然変わっていないのではないか。従って私は目玉事業として、「府中元気大学(仮)」の創設を提唱したい。そこにいろいろなことを集積すべきで、「学び返し」は経験交流である。

もうひとつは、東芝やサントリー、JRAなどに依頼して、企業の冠付きで「東芝サントリーラグビースクール」や「東芝スクール」「サントリースクール」などを一週間くらいやればいい。いいビジネスの交流になるし、一流企業の人たちの経験を使わない手はない。府中にはさまざまな企業があり、それぞれ非常に優秀で高レベルなビジネス経験などが集積されているはずである。

(副会長) 企業が子どもたちにスポーツを教えるなどの交流は現実に府中市の中でやっている。ただ、どこまで深く長くやるかというのは、また別の話である。

(委員) それをすべて集積して、一週間行うウィークなどを作ってやったら、目玉事業になるのではないか。

(会長) いろいろ意見はあると思うが、時間の関係があり、次に移りたい。

(委員) ひとつだけ、基本目標(仮)「みんなで学び みんなに返す ひとと地域がともに育つ 『学び返し』のまち 府中」は、ずっとこれで進めていくのか。

(委員) 私は反対している。少数意見なら仕方がないが。

(委員) ここは大事ではないか。

(委員) 基本目標なので、非常に大事だと思う。

(会長) 検討する時間をもう一度設けた方がいいと思う。ここでコンセンサスができていないと、説得力がない。

## 6 その他

(1) 平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会スケジュール及び内容について

(事務局) 開催日は事前にお知らせしたが、他市との調整の結果10月27日(土)となった。研修会内容等については前回の審議会で正副会長に一任という形にしたので協議した結果を報告する。スケジュールに関しては一覧を見ていただきたい。内容については前回の審議会及び、社会教育委員の皆さまからいただいた意見を事務局で検討した結果、お囃子実演と講演会に決定した。導入として、お囃子のCDを流しながら、スクリーンにお囃子の写真を映し、お囃子の内容を委員の方に説明していただく。そ

の後実演し、伝統芸能としての継承や歴史、府中市のとのつながりについて委員がインタビューする流れとなる。講演会は「人生100年時代の学びと地域のつながり」というテーマで何名か候補をあげ、正副会長と協議した結果、渡辺憲司先生が適任であると判断し決定した。渡辺先生は日本近世文学者で立教大学名誉教授、自由学園最高学部長を務めており、講演経験も豊富である。また第5ブロックで披露予定の市指定無形文化財の府中囃子は、江戸時代に完成されたものと考えられているので、江戸時代の文化に詳しい講師につながるのがある講演をしていただければと思う。その後の流れは前回審議会で説明したものと同様である。

## (2) 次回の開催について

次回は7月下旬に開催する。候補日は7月23日(月)、25日(水)。委員の都合を拳手にて確認した。本日欠席の委員もいるので、確認のうえ事務局で調整し、日程は決まり次第連絡することとなった。